下田市文学シンポジウム

～川端・三島・山頭火－再生の地としての“下田と文学”～

日時 2023年11月21日（火）13:00～16:00（受付12:00～）

会場 下田市民文化会館 大ホール

（駐車場の数が少ないため、できるだけ公共交通機関をお使い下さい。）

募集定員 400名（先着順）

申込方法 事前申込（開始10月12日）
QRコード・電話・図書館窓口

第一部 基調講演 13:10～14:40

講師 平野啓一郎 氏

「三島由紀夫、海そして下田」

第二部 パネルディスカッション 14:55～16:00

テーマ 再生の地としての“下田と文学”

パネリスト 渡邊 紘 氏「山頭火、転生の伊豆路」
原田 正己 氏「『伊豆の踊子』における再生」
渡邊 秀明 氏「露伴と周五郎」

コーディネーター 土屋 知美 氏（SHKアナウンサー）

主催 下田市教育委員会 下田市立図書館
静岡県下田市4丁目7－16
TEL 0558－22－0352

東アジア文化都市2023 静岡県
Culture City of East Asia 2023 SHIZUOKA

東アジア文化都市２０２３連携プログラム事業

下田市文学シンポジウム実施要項

川端・三島・山頭火―再生の地としての“下田と文学”

～天城峠を越えた南には、明るい光と海と、かなしみを包み込む人情があった～

1　趣　旨

豊かな自然や歴史と文化を持つ下田は、川端康成の『伊豆の踊子』をはじめとした多くの文学作品の舞台として、また、三島由紀夫など著名な作家の逗留先として知られてきた。

今回、静岡県による「伊豆のふるさとと文学 2023」の開催に合わせて、伊豆半島の中でも、天城を南に越えた下田という地にスポットを当て、“再生”というキーワードから、その文学の魅力を再発見するためのシンポジウムを開催する。

本事業を通じ、下田の有力な文化資源である文学を市民ひとりひとりが認識し、誇りに思い、未来につなげるとともに、内外に発信することで下田の文学観光という新たな扉を開き地域振興を図る。

2　主　催　下田市教育委員会（下田市立図書館）

3　日　時

令和５年 11 月 21 日（火）　１３：００～１６：００(受付開始 12 時から)

4　会　場

下田市民文化会館　大ホール　（静岡県下田市四丁目１－２）

5　募集人数　４００名(先着順)

6　申込方法

事前申込制（10 月 12 日～11 月 20 日）QR コード、電話、図書館窓口での申し込み

7　申込先

〒415-0024　静岡県下田市四丁目７－１６

下田市立図書館　TEL0558-22-0352

8　プログラム

○	受付	12:00－13:00(開場 12:30)
１．	開会	13:00－13:10
	開会の辞	
	市長挨拶	

２．　基調講演　　13:10－14:40

「演題：三島由紀夫、海そして下田」　講師：平野　啓一郎氏(芥川賞作家)

※三島由紀夫の終生のテーマである海をキーワードに、三島文学における下田逗留の意味を探る(質疑応答含め 90 分)

【プロフィール】

1975 年愛知県蒲郡市生。北九州市出身。京都大学法学部卒。

1999 年在学中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第 120 回芥川賞を受賞。40 万部のベストセラーとなる。以後、一作毎に変化する多彩なスタイルで、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。

著作に、小説『葬送』、『滴り落ちる時計たちの波紋』、『決壊』、『ドーン』、『空白を満たしなさい』、『透明な迷宮』、『マチネの終わりに』、『ある男』等がある。

累計 60 万部超のロングセラー作品『マチネの終わりに』の映画化(2019 年)、『空白を満たしなさい』の連続ドラマ化(2022 年)、『ある男』の映画化(2022 年)と映像化が続く。

2023 年、構想 20 年の『三島由紀夫論』を遂に刊行。三島の思想と行動の謎を解く、令和の決定版三島論。小林秀雄賞受賞。

３．　休憩　　14:40～14:55

４．　パネルディスカッション　　14:55－16:00

コーディネーター：土屋知美氏（SHK アナウンサー）

パネリスト

渡邉　紘氏（元静岡県立下田北高等学校校長）:「山頭火、転生の伊豆路」

原田　正己氏（元静岡県立下田高等学校校長）:「『伊豆の踊子』における再生」

渡邊　秀明氏（元下田市立下田中学校校長）　:[露伴と周五郎」

５．閉会の辞（教育長）

9　参 加 費　　無料

10　問い合わせ先

下田市立図書館

〒415－0024 静岡県下田市四丁目 7－16

TEL：0558-22-0352　FAX：0558-22-5174

Email：syougai@city.shimoda.lg.jp